

薬剤部 DI ニュース

フェインジェクト静注について

2020年9月より、鉄欠乏性貧血の治療薬としてフェインジェクト静注が発売され、現在当院でも頻繁に使用されております。今回は、従来から使用されてきたフェジン注との違いも踏まえながら、フェインジェクト静注の特徴についてまとめました。

表1.フェジンとフェインジェクトの比較

	フェジン静注 40mg	フェインジェクト静注 500mg
商品名		
成分名	含糖酸化鉄	カルボキシマルトース第二鉄
適応	鉄欠乏性貧血 (経口鉄剤の投与が困難な場合)	
用法用量	鉄として、通常成人1日40～120mgを2分以上かけて徐々に静脈内注射する。	通常、成人に鉄として1回あたり500mgを週1回、緩徐に静注又は点滴静注する。 (下記の表2参照)
希釈液	ブドウ糖液	生理食塩液
投与日	連日投与可	週1回
薬価	1Aあたり127円	1Vあたり5759円

フェインジェクト静注の特徴

特徴 1. 週 1 回の投与で鉄の補充が可能

フェインジェクトは、鉄として 1 回あたり 500mg を週 1 回、静注もしくは点滴静注で投与します。週 1 回の投与のため、外来の患者さんの場合、通院の負担軽減につながります。また、総投与量は、患者さんの血中ヘモグロビン値と体重に応じて決定されるため、下記の表 2 を参照して、総投与量を決定します。再治療の際は、患者さんの状態を確認の上、少なくとも 4 週間は空けることとされています。

表 2. フェインジェクトの総投与量

		体重		
		25kg 以上 35kg 未満	35kg 以上 70kg 未満	70kg 以上
血中ヘモグロビン値	10.0g/dL 未満	500mg (500mg を 1 回投与)	1500mg (週 1 回、1 回あたり 500mg を計 3 回投与)	1500mg (週 1 回、1 回あたり 500mg を計 3 回投与)
	10.0g/dL 以上		1000mg (週 1 回、1 回あたり 500mg を計 2 回投与)	

特徴 2. 希釈する場合は、生理食塩液を使用

フェジンは希釈液として、ブドウ糖液を使用しなければなりません。フェインジェクトは、希釈液に生理食塩液を使用します。そのため、糖の投与量に制限がある患者さんにも使用しやすい薬剤です。

投与禁忌な方

- ・鉄欠乏状態にない方
- ・本剤に対し過敏症の既往歴のある方

注意すべき副作用とモニタリング項目

- ・ショック、アナフィラキシー等
- ・肝機能障害
- ・頭痛、倦怠感
- ・血中リン濃度の減少など

血中リン濃度の低下は、
骨軟化症のリスクにつながります。
リン濃度の低下がみられた際は、必要に
応じて、リンの補充が必要です。



* 薬剤に関して、ご不明な点がある際は、お気軽に薬剤部へご相談ください。

(参考資料)

フェジン静注添付文書

フェインジェクト静注添付文書

薬剤部：白井